

# 小児病棟における保育士による家族支援

鈴木 裕子

(平成12年10月5日受理)

## A Study of Support for Family by the Nursery Teacher at the Child Ward of a Hospital

Yuko SUZUKI

(Received on October 5, 2000)

キーワード：家族支援，保育士，小児病棟

Key words : support for family, nursery teacher, infant ward of a hospital

### はじめに

現在の社会状況において、家族支援の必要性は高い。母親の就業や核家族化、情報の氾濫など、支援を必要とする背景は多々うかがい知ることができる。しかし、これらの問題は個人の努力で解決できる範囲のものばかりではなく、社会全体のサポートシステムが問われる必要がある。そして、今後の支援事業の推進が期待されよう。

健康な子どもを育てる上でもこのように困難な状況の中で、病気の子どもを持つ家族は一層困難な事態に直面しており、母親の不安や負担が高いことは容易に推察できる。谷本や上村によれば、入院といった事態は子ども同様母親も心理的緊張や不安からストレスを高めることが明らかにされている。つまり、病棟においても家族、ことに母親への支援の必要性は高いといえる。母親の心理的・身体的な状態は子どもに影響を及ぼすことも明かである。入院中の子どもの治療への取り組みや生活の充実、また、発達保障のためにも、子どもにとって最も身近な母親の身体的・心理的な環境を整えることが求められる。その役割を果たすのは、保育士が適任であると考える。帆足らによる病棟保育士の全国調査からは、母親にとって保育士は相談相手であり、家族を支えてくれる存在として位置づけられていることが理解できると共に、保育士も家族支援の必要性を看守し、母親に対する支援を役割の一貫としてとらえ実際的に援助を行っている

ことも理解できる。

病棟における保育士の専門性や役割が問われている今、保育士の家族支援における役割を明確にし、家族支援を保育士の専門性に基づく活動の一貫として位置づけることは意義深い。母親支援を保育士の専門的な取り組みとして構造化することができれば、保育士の病棟におけるコメディカルとしての確立を推進すると期待できる。そこで本稿では現行の家族支援の実際をとらえ、求められる支援の内容をとらえると共に、その中で保育士が果たしている役割を明らかにし、家族支援における保育士の有用性を検討する。

### 2 方法

平成10年から11年にかけて全国医療保育研究会の保育士から報告された「家族への援助」(20例)から幼児期の母親に対する個別的な支援が展開されている10例を

表1 援助を必要とする内容と件数

入院にともなう不安	3
母親の精神的負担	3
子どもへの接し方	3
母親のストレス	2
身体的負担	2
成長発達の理解	2
父子関係	1
スタッフとの関係	1
面会時間	1
育児不安	1
兄弟のケア	1

所属 児童学科

とりあげ、母親が必要としている援助の内容について検討した。さらに、それらの援助の内、特徴的な4例について考察をすすめた。

### 3 ケースについての検討

母親への支援内容を列記したものが表1である。

平均2項目の支援内容がうかがえる。次に4ケースについて次に述べる。

#### ケース1

1歳男児・外科系疾患・入院期間1年

(家族構成) 父・母・兄・本児

(問題) 兄の長期入院により兄に問題行動

(援助の方針) 兄の状態を保育士から看護婦に申し送り、母の面会時間を早めるように調整を行う。あわせて、病棟スタッフ全員に理解を求める。また、母には兄への関わり方についてアドバイスをす。そして、家庭で兄と関わる時間を増やす。

(援助の効果) 保育士に兄の問題を話すことで母親の精神面が安定していった。病棟全体の理解がえられ援助ができたことは母親に安心感をあたえた。面会時間を調整し、兄と関わる時間が定期的・継続的にとれるようになったことで問題は消失していった。母親の兄の気持ちを配慮した関わり姿勢は、入院中の本児への接し方にも反映されていった。本児と兄に対する関わりバランスがとれていったことで母親も落ちついてきた。

#### ケース2

2歳男児・内科系疾患・入院期間9か月

(家族構成) 父・母・本児

(問題) 子どもへの関わり方がわからない

(援助の方針) 子どもの成長や発達をとらえた関わり方についてアドバイスをす。また、日常の子どもの様子を具体的に示しながら行動の意味や要求のとらえ方、そして、ほめ方・叱り方を具体的に伝える。さらに、母親とノート交換を繰り返し、母親の養育行動についてその都度フィードバックする。

(援助の効果) 初期の段階では保育者の話やノートの記述内容が十分伝わらないことも多く、上手く関われないようであった。しかし、時間の経過にともない徐々にではあるが関わり方が理解されるようになった。保

育士の行動やノートに記載する保育者の子どもへの関わり方を母親なりに受けとめ、模倣しながら体得していった。母親の子どもに対する関わり方の変化は、子どもの不安やストレスを軽減させ、情緒を安定させてきている。情緒的に落ちついてきた子どもの様子は、母親に望ましい関わり行動を一層促している。

#### ケース3

1歳女児・内科系・入院期間1年

(家族構成) 母・祖母・本児

(問題) 母親の精神的および身体的疲労

(援助の方針) 家庭環境を考慮して全面的に母親を支えていく。保育士と子どもとの関係を深め母親の心身の負担を軽減する。

(援助の効果) 家庭状況をとらえ、保育士を中心とした病棟全体の協力体制による援助を開始したことにより、母親の疲労や負担を軽減することができた。子どもも保育者と親しみ、母親不在の時も安定していられるようになり、治療も順調に進められた。祖母の世話や子どもの入院で単親である母親の疲労と負担はかなり高かったが、保育士の協力で僅かでも休養がとれたり、気分転換をはかることができた。その後は情緒的にも安定して子どもに関わるようになっていった。

#### ケース4

5歳女児・内科系・頻回の短期入退院

(家族構成) 父・母・本児

(問題) 母子共に入退院によるストレスが高い。良好な母子関係が築かれていない。

(援助の方針) 保育士と子どもで楽しい時間を共有し、遊びをとうしてエネルギーを発散させ子どもにストレスがたまらないようにする。母親には自分だけの時間を提供しながら、あわせて子どもの良い面を伝えたり、子どもの気持ちやストレスをとらえた対応の仕方について話し、母親と子どもの関係の再構築をはかる。

(援助の効果) 保育士が子どもと遊びを通して定期的に関わることで子どもの攻撃的な行動が少なくなってきた。機嫌よく過ごす時間が増え、感情をコントロールする様子も見られるようになった。母親も自分の時間が確保され気持ちのゆとりがみられるようになった。落ちつきをみせてきた子どもの変化に母親が気づき、保育士に助言を求めたり、自分の子どもへの接し方を

見直す余裕もでてきた。保育者から伝えられる子どもの良い点を再認識するようになった。また、母親は保育士とのコミュニケーションを通して日常の不満や不安などを軽減させていった。

#### 4 考 察

ケース1は入院児の兄弟に問題が発生した例である。保育的な視点からは、入院児に限らず兄弟の育ちも視野にいれた援助が求められていることがうかがえる。保育士は母親にとって「相談相手」といった位置づけを持っていることから、家庭内の問題も安心して話すことができるといった関係性が成立している。兄弟に問題が顕在してくるといった状況は母親のストレスを一層高める子とが推察される。このような場合、入院児以外の兄弟の問題に対する解決の方法を具体的に提案することも必要となる。つまり、家族支援に対して保育士は家族間の関係調整も果たしていくことが求められる。しかし、本ケースの援助効果にあげられているように、母親の兄の気持ちに配慮した関わりは、ひいては入院児への対応にも反映され子どもに良好な結果を生んでいる。

また、ケース2は子どもの不安に母親が適切に対応しきれず、子どもの攻撃的な行動を助長し、このことが母親もストレスを一層高めているようである。このようなケースの場合、保育士は子どもの代弁者として母親にそのメッセージを伝える役割を担うことも求められよう。そして、母親自身の子どもへの気づきを促すことが必要となろう。また、ノートの交換によりその時々的事柄を記録に残していくことは、子どもとの関わりを客観的にとらえ直すきっかけとなろう。会話とは異なるコミュニケーションも積極的に利用することより、母親の理解は一層促されたと考えられる。このように、保育士は母親が理解を深める方法を種々身につけている必要がある。そのためには母親の様子を客観的にとらえる目と、子どもと母親の両者に共感的に関わりながらも、適切な対応方法を提供できる力量が望まれる。

さらに、ケース3のように単身家庭の場合は、より積極的に母親の支援を展開していく必要がろう。つまり、家族構成をふまえた支援の展開が余儀なくされているといえる。本ケースの場合は父親不在と祖母の世話、さらには子どもの入院といった状況があいまって、母親の負担は極限に達していると推察できる。子どもにとっても、このような中で母親とだけ向き合うより、母親以外の頼

れる大人との間で好ましい人間関係を経験し、信頼感を獲得していくことが望ましいといえる。母親の精神衛生をはかることは不安な状態にいる子どもにとっても必要なことであるといえよう。

そして、ケース4にみられるように、病棟といった閉塞的な空間はそれ自体母子共にストレスを高めていることが容易に推察できる。子どもはストレスを攻撃的な行動で訴え、母親は子どもの思いを受けとめきれず、自分自身のストレスも重なり関係性の悪循環を引き起こしていると考えられる。入退院を繰り返すこと自体ストレスであることも理解できる。このような生活下では、母親と子どもとの間で良好な関係を築く機会を逸してしまっていることもうかがえる。しかしながら、子どものエネルギーを遊びに向け、遊びの中で気持ちを解放させながら、保育士と心地よい関係性を築くことで子どものストレスは軽減させることができたと考えられる。一方、母親は自分の時間を確保できたことで気持ちの切り替えが出来、子どもに向き合う姿勢が前向きに改善されていったと推察できる。子どもにも母親にも共感的に関わることが出来る保育士の存在はこのように人間関係を良好な状態に軌道修正していくことが可能である。保育士は家族支援を通して協力者として、また、アドバイザーとしての役割を果たしているといえよう。

#### おわりに

支援を必要とする内容は多岐にわたる。また、4ケースについて保育士の視点による家族支援の実際を通し考察し、病棟において保育士の果たしている役割について述べてきた。まず、家族はそれぞれに個別的であり、各々さまざまな生活の背景と歴史を持っていることが理解できる。当然支援の内容や取り組み方は多様である。しかし、このような特徴を持つ家族ではあるが、保育士として家族に向き合うときの基本姿勢として、共通してとらえられる内容は見いだすことが出来る。それは、まず子どもとその家族のそれぞれに共感的に関わるといった点ではないだろうか。このような視点にたった支援が問題の解決をはかっているといえる。

また、病棟といった子どもにとって一定期間生活の場となる空間において、子どもの発達援助と生活の充実をはかることが保育士の専門性であるが、子どもの情緒の安定をはかる点は欠かせない。そのためには子どもにとって最も身近かな存在である母親を支え母親の情緒を安定

させることが必要である。ケースからも明らかにされたように、問題に応じた母親への心理的、身体的な支援等の取り組みが展開されている。また、必要により他職種との協力をはかりながらも援助の役割の中核を保育士が果たしている。母親を支えることは子どもの生活の質を向上させるために欠くことが出来ない側面であることは明かである。保育士は家族支援に関する母親のニーズに応え、十分に成果をあげている。保育相談や子育て支援に保育士が活用されてきていることを考慮すれば、病棟における家族支援を病棟の保育職の専門性に基づく役割として位置づけることは十分に期待できる。今回明らかになった点をふまえ、今後は、組織的な家族支援のあり方について検討していきたい。

## 文 献

- 帆足英一 全国の病棟保母の実態と課題 全国医療保母研究会 (1997)
- 井田亜希子・中久喜町子 小児看護領域における家族看護の研究動向 川崎市立看護大学紀要 (2000)
- 神田美子 入院における特殊成果らの解放 第44回日本小児保健学会講演集 (1998)
- 大森せつ・竹本玲子・山本正子・川島ひろ子 支援を要する子どもと家族に対するケア・コーディネーション推進事業 厚生省研究支援小委員会報告書 (1998)
- 谷本博子・窪田早苗・柴田さゆみ・畑中スミ子・木村恭子・泉裕之 小児の入院付き添いに関する保護者の意識 第45回日本小児保健学会講演集 (1999)
- 上村由美子・長岡美香 もしもし、うちの子どうしてですか 第45回日本小児保健学会講演集 (1999)
- 吉田 純 子どもの家族へのかかわりにおける悩み 看護学雑誌 61(6) 1997

## Summary

This report proves importance of family support by the Nurselly Teacher at the child ward in hospital. Family Support is one of the most important subjects today. And it is same as the child ward in hospital. Therefore I considered Family Support in hospital by some cases. The cases proved the mothers had anxiety and serious fatigue physically and mentally. And against that, each Nurselly Teacher played an important role in supporting mother and cooperating in solution of problems. In short, Nurselly Teacher that is involved in daily life with mother, Nurselly Teacher is necessary for mothers in hospital. This means that the Nurselly Teachers action leads mothers to desirable movement. For that reason, In the future it is expected to take the way of family support systematical and establish its special field.